

リモートセンシングを活用した「青天の霹靂」生産指導 Web アプリの開発

Development of production support Web application for "SEITEN NO HEKIREKI" using remote sensing

小野 浩之、境谷 栄二*
(*農林総合研究所)

青森県の美味しいお米として初めて特A評価を取得した「青天の霹靂」は、そのブランド価値を維持するために厳しい出荷基準が設けられている（食味指標：タンパク質含有率6.4%以下、品質指標：検査等級2等以上）。青森県では、この出荷基準をクリアするための栽培管理に、衛星画像を活用したリモートセンシング技術を用いている。

これまでに、水稻の食味向上や品質の安定化のためにリモートセンシング画像からタンパクマップや収穫適期マップを作成する技術を確立し、さらに、スマートフォン等のモバイル端末で容易に、収穫適期マップ等の表示とGPSによる現在位置の確認ができるWebアプリを開発し、生産現場で活用してきている。

今年度は、これまで紙ベースの地図を用いていた青天の霹靂の生産圃場と生産者の対応付けをする突合作業を支援する「圃場番号確認Webアプリ」を新規に開発した。

